

賣人にも高尚なのが見えるといふのは、畢竟身化粧の如何にあるので、強ち商賣人だからとて、一概に下品だと貶すとも出來ず、又素人を見て高尚かと賞する譯にも行かない。が、身化粧の上手といふと男は俳優、女は藝妓と殆んど相場が極つて居るから、筆初めに當時専ら行はれて居る花柳社會の化粧法を取調べて御紹介しやう。

▲新橋と柳橋▼

單に花柳社會と來ると其範圍其風俗を取調べる譯にも行かず、其營業の場所々々に依て身化粧を異にして居るのは、治く人々の知る處であるが、新橋と柳橋は花柳社會で一番勢力があつて、然も其化粧法は高尚と粹とを折衷した一種言ふ可からざる所があるから、多年同一場所で商賣して世間で名を知られて居る老妓に就て、平素使用する所の化粧品並に化粧法を尋ね、尚實物を一見して其効驗を試し、聊か世の淑女に裨益のある様にと新柳二橋で専ら行はれて居る化粧法を記すことにした。

▲白粉の選擇▼

白粉は化粧上に最も深い關係のあるとは、人々の知る所て

日常是を使用する時は、容貌を美しくする評りでなく、皮膚を清潔にし惡疫の豫防となるなど、其効能は枚舉に違あらずであるが、其材料は種類が幾通りもあるて、何れも有効衛生などを能書には記してあるもの、品質の善良なのは至つて僅かで、劣等粗惡の品を外面の美しさ器に入れて瞞着す奸商が多くある爲め、俗に白粉燒と稱へて眼の縁に黒斑が出来、ある年を経るに従つて顔の全體があらびるのは、全く化粧をして居るのがある。是は問ふ迄もなく劣等の白粉で鉛毒の爲め、却つて容貌の美を損するのだ。であるから新柳二橋を始め一般の藝妓社會は克く白粉の選擇を吟味し、有効の無鉛白粉を使用して、其上化粧に注意する爲め三四十の老妓も顔はみづくして、何時も若く見えるのは、全く化粧注に注意する故である。當時藝妓社會で歓迎する無鉛白粉は左の品々であるさうだ。

百合、白妙、水晶白粉、名譽白粉、御園の露、やまと梅の梅、ボウイトロース、菊の露、雲井、國の鏡、初音白粉

可し。唯一寸工合のあるのは、最後に側からヒヨイと出す隠しの一題なれども、これとて取出す者に少しお心得あれば譯なしなり。ト云つて鯉橋をあまがるてなし。題を取上げて行く順序悪ければ途中にて迷誤つくは必定、即ち爰が熟練を要する處。但しよくよく苦い時には、豫て用意の一品を隠し題にして置いて、スラリと切上げて付けるが祕訣と、これは素人に付ける智、商賣人は決して致さぬ、卑怯の振舞。鯉橋先生此方へ怒つて來ては困る。能書は云つても手前ドヤ逸一つ唄へる男では御座らぬ、他愛他愛。

△柳玉と云へる髭の寄席藝人、自作と稱するオツペケベーを今以て唄ふ。太古の人々に會ふ心地はするものから、文句は流石に當時の事に綴つたれば、露將の名を覺え切れぬ連中には、これも亦面白しと聞かるに似たり。何んでも新規でないまでも、洗張するぐらゐは肝要。柳玉ア怜悧だオツペケペー。

前號「媒拂」の中三百八十三頁下段五行目「小さん」「正小きんは」の誤植。

一口に、婦人は衣裳髮容と言ふが、如何に顔が花のやうな美しい妙齡の娘でも、碌々湯にも入らず、垢だらけの衣類を纏ひ、髪を發狂者のやうにして居たならば、決して見らるゝ譯のものでない。是に反して少し位不綴織な者でも、金と時間を惜まず、日髪日粧と言ふ位に始終嬌飾て居たならば、年齢の奈何に拘はらず屹度綺麗に見えるのは、更めて記す迄もないであらう。して見ると衣裳髮容は、全く婦人の身に取て一番大切なものは、古人の教訓に化粧は女の身だしなみとあつて、衣裳髮容を次て必要なのは、此の身化粧で、化粧の遣方と、衣裳髮容の三つて、高尚にもなれば、下品にもなるのだ。であるから麹町、四谷、牛込、赤坂等の山の手に住てる令嬢夫人にも下品な作りがあれば、下町の商



花柳界の化粧法

て名古屋種は皆無とも言ふ可き状況であるから、自然新橋の化粧は華麗で、やせらじほは潇洒と見えるのだ。客も新橋のみで遊ぶ輩は此派手姿を喜び、柳橋最員の客は淡化粧を賞るのは寧ろ當然のことであるが、女性の色白からぬ人が濃く化粧をする時は、附け白粉が鼠色を帯びて、見るから下品であるが、淡く化粧をすれば、斯る憂ひがない。併し鼻には少し濃く塗るので、其附け方は鼻筋から鼻梁へ掛けて稍濃くし鼻の上から下へ向けて刷き班點にならぬやうにするのださうだ。白粉の附け方は各自の流儀と顏の形、鼻の高低、眼と口の大小に依て異なるから、是丈けにして白粉下に就て記さう。

▲白粉下の類▼

顔其他皮膚を艶麗にする白粉
そのなかで二八水、キレ一水の二種が新柳二橋と首めの他の花柳社會で貰用されて居る。以上上の化粧水の外硼酸達にグリスリン、氷砂糖、薔薇水等を配合し液は、其效能最も著しく、毎朝顔を洗ふた後若くは入浴の後に是を塗ると怠らないと、冬季にな

して白粉下に就て

論

顔其他皮膚を艶麗にする白粉

然新橋の化粧は華麗で、柳橋は潇洒と見えるのだ。客も新橋のみで遊ぶ輩は此派手姿を喜び、柳橋最員の客は淡化粧を貰るのは寧ろ當然のとてあるが、性來色の白からぬ人が濃く化粧をする時は、附た白粉が鼠色を帶びて、見るから下品であるが、淡く化粧をすれば、斯る憂ひがない。併し鼻には少し濃く塗るので、其附け方は鼻筋から鼻梁へ掛けて稍濃くし鼻の上から下へ向けて刷き班點にならぬやうにするのださうだ。白粉の附け方は各自の流義と顏の形、鼻の高低、眼と口の大小に依て異なるから、是丈けに

便利湯化粧

ゆる。

つて、輝裂、凍瘡等に冒ざるゝとなく、尙夏季中は日焼及び雀斑の發生を防ぐのみならず種々の皮膚病を豫防する効がある。總て白粉下は白粉を附る前に塗て置くと、白粉の附を宜くする許りでなく鉛毒、白粉焼等を防ぐ効があるから、化粧上一日も缺く可

便利湯化粧

ゆる。

つて、輝裂、凍瘡等に冒ざるゝとなく、尙夏季中は日焼及び雀斑の發生を防ぐのみならず種々の皮膚病を豫防する効がある。總て白粉下は白粉を附る前に塗て置くと、白粉の附を宜くする許りでなく鉛毒、白粉焼等を防ぐ効があるから、化粧上一日も缺く可

▲ 便利湯化粧 けんりつ ゆうかく ▼
新橋の金春湯又は柳橋最寄の
錢湯から、手拭包を右手の手に
持ち、若くは濡手拭を口に啣へて、綺麗に化粧した
藝妓が出て来るのを見受るであらう。是が即ち湯化粧である。此の化粧法は先づ入浴の際糠袋で顔から胸の邊り迄も能く洗ひ、夫から白粉を溶かして顔頸筋等に塗り、兩手で丁寧に擦込み、再び糠袋で其白粉を洗ひ落すのである。一旦附た白粉を洗ひ落すのは、無益のやうに思はれるが、白粉は汚垢を去る効があるから斯うするので、斯く白粉が洗ひ落ると同時に手拭を以て能く拭き、更に薄く白粉を附て手際よく擦込み、手拭を少し熱い湯に浸して絞り、是て顔を拭ふるのである。老妓の話に依ると昔時は何所のか藝妓も湯化粧をしたものはなかつたが、御座敷の掛

花の雪、肌羽二重、雪の雲等。
あるが新橋では重にホワイトローズと水晶白粉、
柳橋は御園の雪と菊の露を用うるさうだ。
▲ 口紅の用法 ▼
白粉と共に化粧上缺く可からざる紅は能く皮膚の血色を補
ひ、鮮麗艶美ならしむる効能は白粉同様著しいも
のである。口紅は化粧品の中でも昔から祝ひ物と被
へられ、慶事と平常の化粧には必ず附け可きもの
であるが、脣の眞中にむぎと附たのは賤しく、尚更
歯に迄も附いて居るのは見苦しいもので、脣一杯に
附けると口の小さい人でも大きく見えるから、日頃
化粧に憂身を婬する者すら紅の用ゐ方は頗る六ヶ
敷いと言つて居る。口紅は京都の小町紅が古來有名
であるが、佛國製の「ボマーデ」と稱へる口紅は、色
合と云ひのりと云ひ小町紅と變らない爲め、用うる
者があるさうだ。

▲ 白粉の塗法 ▼

素人は兎角日増の冬瓜か、基
督會堂の白壁宜しくと云ふや
うに、唯ベタベタと塗立て、劇しく笑ふと顔に龜裂
がいるなど、思はれるのは、奈何にも下品で見苦し

白粉の塗法

三

花の雪、肌羽二重、雪の雲等、
あるが新橋では重にホワイトローズと水晶白粉、
柳橋は御園の雪と菊の露と用うるさうだ。
▲ 口紅の用法 ▼
白粉と共に化粧上缺く可からざる紅は能く皮膚の血色を補
ひ、鮮麗艶美ならしむる効能は白粉同様著しいも
のである。口紅は化粧品の中でも昔から祝ひ物と稱
へられ、慶事と平常の化粧には必ず附け可きもの
であるが、脣の眞中にむさと附たのは賤しく、尙更
歯に迄も附いて居るのは見苦しいもので、脣一杯に
附けると口の小さい人でも大きく見えるから、日頃
化粧に憂身を襄し居る者すら紅の用ゐ方は頗る六ヶ
敷いと言つて居る。口紅は京都の小町紅が古來有名
であるが、佛國製の「ボマーデ」と稱れる口紅は、色
合と云ひのりと云ひ小町紅と變らない爲め、用うる
者があるさうだ。

▲ 白粉の塗法 ▼

素人は兎角日増の冬瓜か、基
督會堂の白壁宜しくと云ふや
うに、唯ベタベーと塗立て、劇しく笑ふと顔に龜裂
がいるなど、思はれるのは、奈何にも下品で見苦し

い許りでなく、前に記した通り劣等の品であるから却つて衛生上に害を及ぼすのは火を喰るよりも明かである。藝妓は素人と違ひ、化粧が資本の一つに數へられ、然も皮膚を大切にして永久商賣に堪へ得るやう化粧法に重きを置き、時間と省いて身化粧を爲る事を心に掛けて居るから、甚だ簡便で其上綺麗なと到底化粧の右に出るものはあるまい。其方法は先づ生際の亂毛を能く梳上げ、顔と頸筋に掛らぬやうにして置き、夫から溶きたる白粉を鼻の上から塗初めて兩の頬、額、腮と順次に塗廣める。最初、白粉は徐々と指先で伸ばし、少し宛塗り、塗終ると眉刷毛に水を少し附け、是で幾度も軽く刷くので、刷毛の遣ひ数少ない時は白粉が浮て直しくないさうだ。夫から粉白粉を乾いた眉刷毛に附けてザット顔に刷掛け、濕つた手拭で睫と眦を軽く拭ふのである。此時間が僅に十分乃至廿分で全然出来るとは何と早いことはあるまい。化粧の方法は新橋と柳橋と聊か趣を異にして居る。是は何故であるかと言へば新橋には名古屋、大阪その他の地方の者が加はり、純粹の東京者の少ないに引替へ、柳橋は江戸子八分

○今年は戦争の爲め遠慮でもしなのか花柳社會で春着を新調した者少なく、昨年に比して約三割を減じたけれども

三越吳服店調製春着

行流



藝妓の春著

店へ註文し、屠蘇羅煮の御祝儀が済むと、御約束の有無に拘はらず、遠近を歩行廻る姿は、繪に描たよ

(芝虎の門外 豊田寫風所撮影)
てあるが、新橋藝妓は重に三越
通一丁目の白木屋、本町の津田

る姿は、
と、御約束の
繪に描たよ
りも餘程精
麗である。
◎註文の
人
吳服店人
は十人十色
木屋最員も
あり、買易
て三井最員
もあれば白
いとて今川
木屋最員も
着を註文す
るから、春
行く人もあ
る吳服店も
各自の最員
他ののが日本
橋町の大業

つた藝妓が手廻しに湯屋でしたのが例になつて、近頃は令嬢夫人まで湯化粧をするに至つたのは、二十年以來のことです。

▲懷中化粧鏡

▲懷中化粧鏡▼

是も十八九年以前から流行初めた化粧道具、到る所の勧工場で見る。京橋南傳馬町の大西白牡丹等の店頭で能く見る。今は盛に東京で流行る、此事から推ても京都藝妓が花見や芝居見物に携帶した物が、大勢入込んで居るのがお分かりになりませう。此鏡は昔時は派手な大方形で、帶の間や胸の間に挿んで、人の目に著いたものでした。今のは小締りして高尙優美になつた。

△洗粉と米糠▼

洗粉と米糠は皮膚の汚垢を去り艶美ならしめる効がある。洗粉の良品と言はれて居るのは小豆粉に滑石、龍腦、甘松等を適宜に配合したもので、米糠は正味の糠で、極新鮮な物は、洗滌劑として歐米各國の婦人社會で用ひられる「コールドクリーム」にも勝るさうだ。又入浴の時顔と頸筋を洗ふには、米糠に鶏卵の白身を混れば一層効能がある、けれど其都度鶏卵を一個

潰すのは不經濟であるから、豫め等の日本紙に白身を塗て乾燥し、是を一寸四方程の大さに切り、其二三片を糠と共に袋に入れて用うるのである。凡て洗粉と米糠は粗悪のものを用うる時は、忽ち肌膚を粗くし、化粧上の妨害となるのは必らずして、米糠も器械扱になつた糠になると、房州砂が混合して居るので皮膚を害するから、此二品は最も花柳社會では善良のを選ぶさうだ。

しゃう。

此外衣類の着附け、髪の結び方、髪のせんと香水の石鹼の選擇、

髪油、額際と頭脚の作り方などの話は、號を追つて記すことには

さいませ！」
「何、坊を預かる？」
お前が坊を見ておいて、
おひな坊を預つて下